

Workshop on Japanese old and rare books in HNL2017

Lecture on the basic knowledge of
Nara E-hon and its relationship with
publishing

Maori SAITO (NIJL)

Date: February 17, 2017 (Friday)

Place: Honolulu Museum of Art Lecture Hall



Jinteki mondō

1. 奈良絵本概説

Term／Age ／Subject ／Production／Form

* HoMaの奈良絵本

2. 奈良絵本と出版文化

『山海異物 *Sankai ibutsu*』

『仙人づくし *Sennin zukushi*』

『岩竹 *Iwatake*』

3. ホノルル本『塵滴問答 *Jinteki mondō*』について

Nara e-hon

Old Manuscripts Containing Illustrations

▽Term: "Nara-e" began to be used since the Meiji Period.

▽Age: Late Muromachi period ~ Early Edo period

▽Subject: otogi-zōshi (御伽草子), monogatari (物語), setsuwa (説話), yōkyoku (謡曲), kōwaka (幸若), *Hyakunin Isshu* (百人一首), ...

※御伽草子の作例が多い

▽Production:

- ezōshiya (絵草紙屋) = 印記「城殿和泉掬」(kidono izumi no jyō → 扇屋)、
「御ゑさうし、天下一、小泉やまと」...
- 朝倉重賢 (Asakura Jyūken)、浅井了意 (Asai Ryōi)、居初つな (Isome Tsuna)...

▽Form(石川透『奈良絵本・絵巻の世界』入門 奈良絵本・絵巻』より抜粋。青字は最も作例が多いもの)

1. Scroll

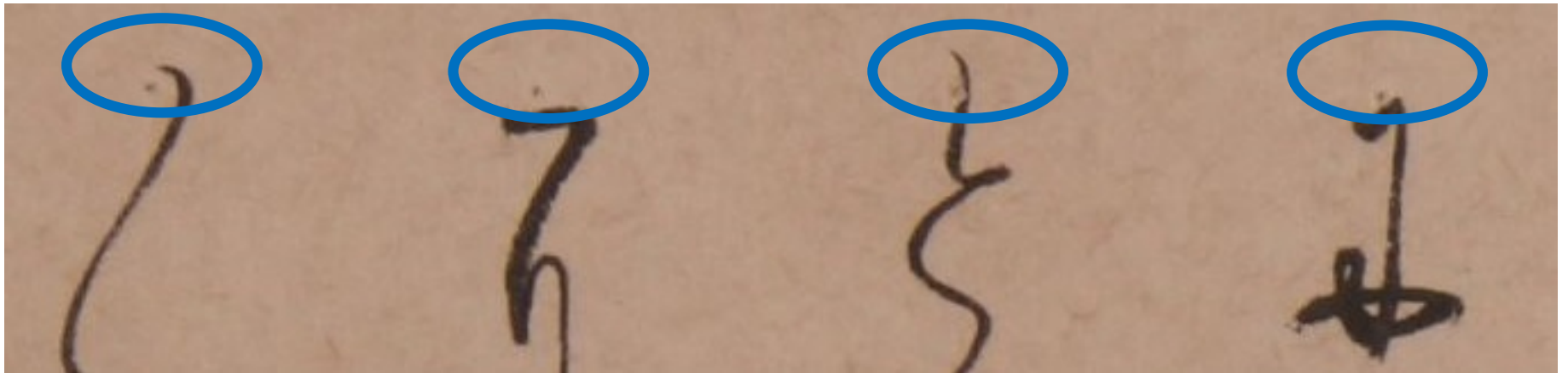
- ①Small size(小絵 ko-e) H16.0cm／室町後期～江戸初期
- ②Medium size H25.0cm
- ③Large size H33.0cm／江戸前期.／1紙＝33cm×50cmの絵巻が多い

2. Book

- ①縦型
 - ・特大型＝30.0×23.0cm／室町末期～江戸初・前期
 - ・大 型＝27.0×20.0cm
 - ・半紙型＝23.0×16.0cm／江戸前・中期
 - ・中 型＝20.0×14.0cm／江戸前・中期
 - ・小 型＝16.0×11.0cm／江戸前・中期
- ②横型
 - ・特大型＝23.0×30.0cm／江戸前・中期
 - ・半紙型＝16.0×23.0cm／江戸初期と江戸前・中期のものがある。後者は各行に針穴(針見当)がある
- ③枡形(masugata)＝20.0×20.0cm／室町末期

針穴＝針見当 hari kentō

バランスよく詞書を書くため、各行頭や行末に目安としてあけられた針穴のこと。この針穴をもつ横型奈良絵本は江戸時代前・中期の制作とみてよい。



▽奈良絵本の制作年代

I ごく初期:天正以前(～1595)

Kachō fūgetsu(『花鳥風月』1冊・石川透蔵・16.0×22.6cm)



II 初期:慶長頃(1595～1625)

Kari no sōshi(『雁の草子』白描絵巻1軸・京都大学蔵・慶長7年奥書・H18.6cm)



III 前期:寛永頃(1625～1655)

Benkei monogatari(『弁慶物語』1冊・京都大学蔵・33.1×22.0cm)



IV 中期:寛文頃(1655～1685)→作例が最も多い

Daikoku mai(『大黒舞』絵巻2軸・NIJL蔵・H34.0cm)



Hachi kazuki(『鉢かづき』2冊・東洋文庫蔵・23.4×17.4cm)



Hyakuryō kun'yōshō(『百寮訓要抄』2冊・東洋文庫蔵・24.8×18.4cm・官職の解説書)

V 後期:元禄頃(1685～1715)

Takadachi(『高館』奈良絵本3冊・石川透蔵・16.4×23.9cm)



VI 終末期:享保頃(1715～)

Taketori monogatari(『竹取物語』奈良絵本1冊・藤井隆蔵・15.8×23.8cm)



I ごく初期：天正以前(～1595)

Kachō fūgetsu 『花鳥風月』

otogi-zōshi (御伽草子)

Private Collection (Tōru Ishikawa)



II 初期：慶長頃(1595～1625)

Kari no sōshi 『雁の草子』

otogi-zōshi (御伽草子)

hakubyō 白描



Kyoto University Rare Materials Digital Archive

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013519#?c=0&m=0&s=0&cv=16&r=0&xywh=1348%2C0%2C5766%2C2047>

Ⅲ前期:寛永頃(1625～1655)

Benkei monogatari『弁慶物語』 otogi-zōshi(御伽草子)



Kyoto University Rare Materials Digital Archive

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013189#?c=0&m=0&s=0&cv=2&r=0&xywh=316%2C806%2C5766%2C2047>

Ⅳ中期：寛文頃(1655～1685)

Daikoku mai 『大黒舞』

otogi-zōshi (御伽草子)



縹色地に唐草文様金欄表紙

hanada iro ji ni karakusa mon'yō kinran byōshi

朱題簽 shu-daisen 「大こくまひ」

<https://doi.org/10.20730/200006198>

Hachi kazuki 『鉢かづき』

otogi-zōshi (御伽草子)

※一面10行で書かれるのは、この時期の縦型本の特徴。

東洋文庫画像DB



http://124.33.215.236/gazou/index_img_iwasakizenponsasyoku.php?tg=&c1=%E3%81%AF

Ⅳ 中期：寛文頃(1655～1685)

Hyakuryō kun'yōshō 『百寮訓要抄』

[http://124.33.215.236/gazou/201611/showimg201611.php?lstdir=3-l-a-](http://124.33.215.236/gazou/201611/showimg201611.php?lstdir=3-l-a-9_01&booktitle=%E7%99%BE%E5%AF%AE%E8%A8%93%E8%A6%81%E6%8A%84(1)&iPage=1&pgtitle=)

[9_01&booktitle=%E7%99%BE%E5%AF%AE%E8%A8%93%E8%A6%81%E6%8A%84\(1\)&iPage=1&pgtitle=](http://124.33.215.236/gazou/201611/showimg201611.php?lstdir=3-l-a-9_01&booktitle=%E7%99%BE%E5%AF%AE%E8%A8%93%E8%A6%81%E6%8A%84(1)&iPage=1&pgtitle=)

切継様彩色表紙
kiritugi yō saisiki hyōshi



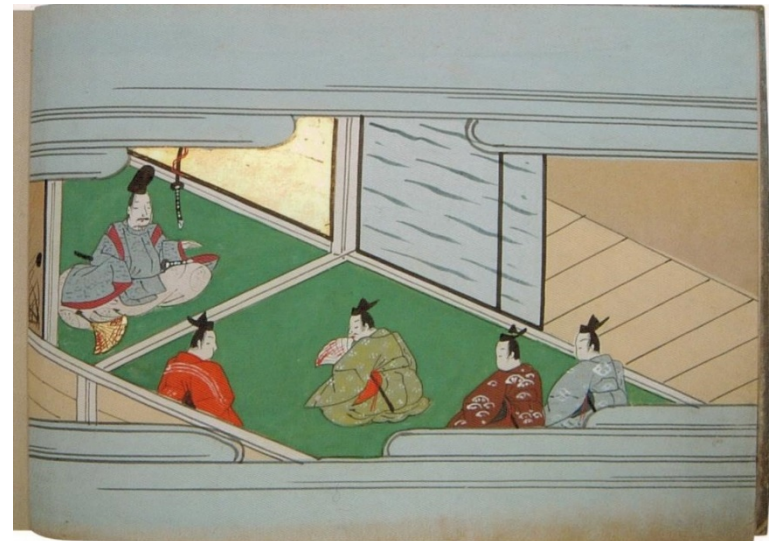
Ⅴ 後期：元禄頃(1685～1715)

Takadachi 『高館』

Kōowaka bukyoku

(幸若舞曲・室町時代に流行した語り物芸能)

Private Collection (Tōru Ishikawa)



VI終末期：享保頃(1715～)

Taketori monogatari 『竹取物語』

- ・享保(1716～35)頃。
 - ・『藤井文庫 物語の古筆と奈良絵本』に収録。
(春日井市道風記念館展示図録、2008)
 - ・「月よりの迎えの天人一人もなく車のみなど、
これ以上の手抜きはできない」。
- 終末期奈良絵本として貴重。

参考：*Taketori monogatari* (CBL 30.2 × 22.0cm)
<http://www.cbl.ie/Exhibitions/Past-Exhibitions/The-tale-of-the-Bamboo-Cutter.aspx>



Coloring

—東洋文庫『釈迦の本地』—

東洋文庫画像DB

http://124.33.215.236/gazou/2009/gazo2009_read.php?TGName=3_F_a_ro_10_03&ITargetPage=22&size=1000



書き入れ「あ」
→青色を塗るよにという
色指定

書き入れ「をと」
→黄土色を塗るよにという
色指定



書き入れ「大し」
→代赭色を塗るよにという
色指定



Scroll —otogi zōshi—

① Small size

Yahyōe nezumi (U. Keio)



<http://dcollections.lib.keio.ac.jp/sites/all/libraries/uv/uv.php?archive=NRE&id=132X-90-2-1&page=4#?c=0&m=0&s=0&cv=3&r=0&z=0%2C-440.8994%2C5374%2C2709.7988>

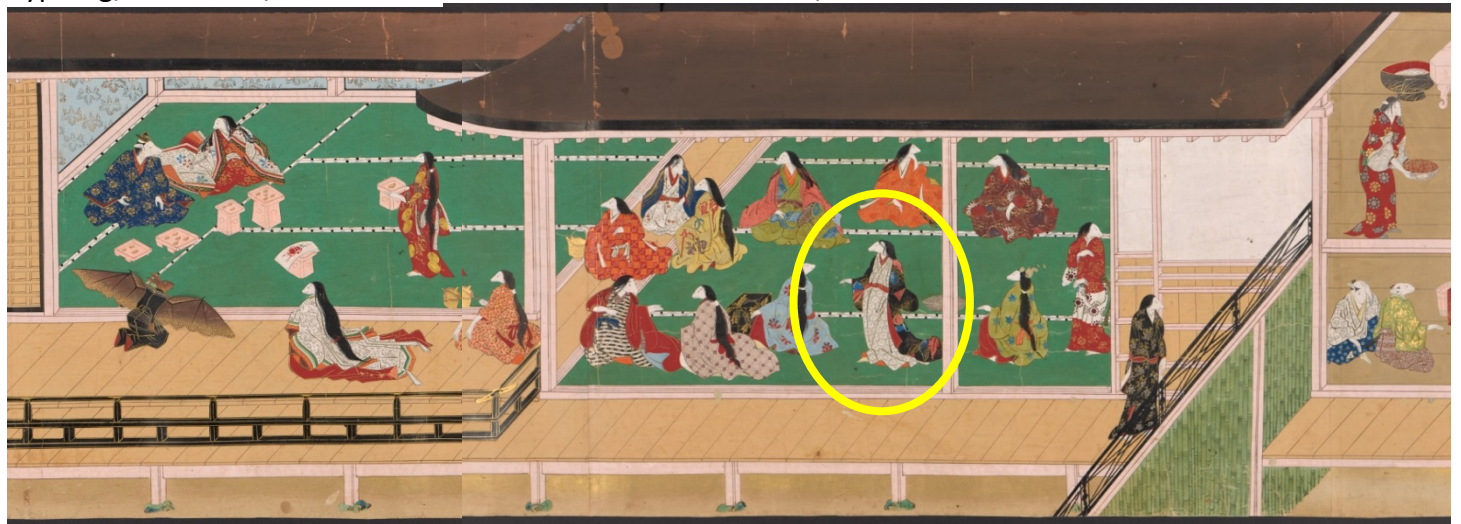
③ Large size

Nezumi no sōshi shusse monogatari (17c / The New York Public Library = NYPL)

<https://digitalcollections.nypl.org/collections/nezumi-no-soshi-emaki-the-tale-of-mice#/?tab=about&scroll=2>

①③は同じく『弥兵衛鼠』の婚礼場面だが、挿絵の趣向が大きく異なる。

◎挿絵に時代の好尚が反映されている

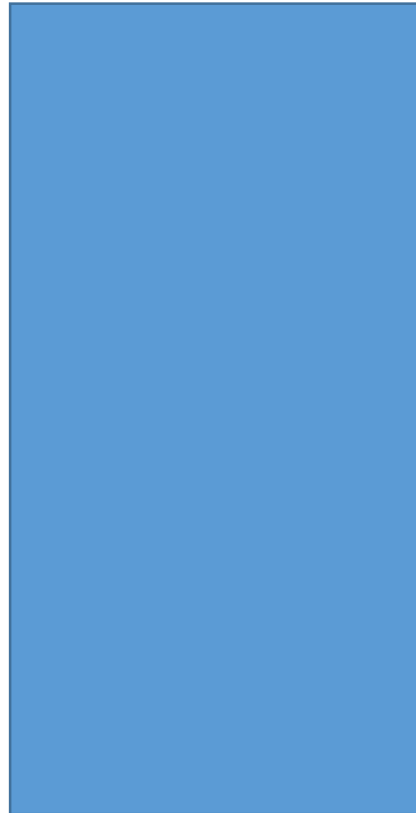


Nezumi no sōshi shusse monogatari

(NYPL)



Kanbun bijin zu : 17c



Hishikawa Moronobu
(1618-94)

Kosode no sugatami

<https://pulverer.si.edu/node/502/title/1>

- ◎ 奈良絵本に風俗画(美人画)の要素が取り込まれている。
- ◎ 奈良絵本制作の現場に、浮世絵師との交流が看取される。

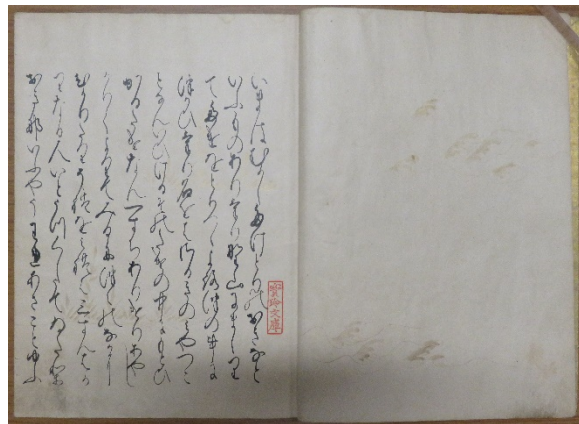


* HoMaの奈良絵本 中期:Ⅳ寛文頃(1655~1685)の作例

Taketori monogatari『竹取物語』(HoMA) 寛文延宝頃。No. 2559.1Ba, 2559.1Bb, 2559.1Bc



①紺紙金泥表紙
Konshi kindei hyousi



②冒頭(片面10行 寶玲文庫印)



③かぐや姫



④尼姿の媼ōna
尼であるにも拘わらず、長い 白髪が描かれている。



⑤かぐや姫の昇天

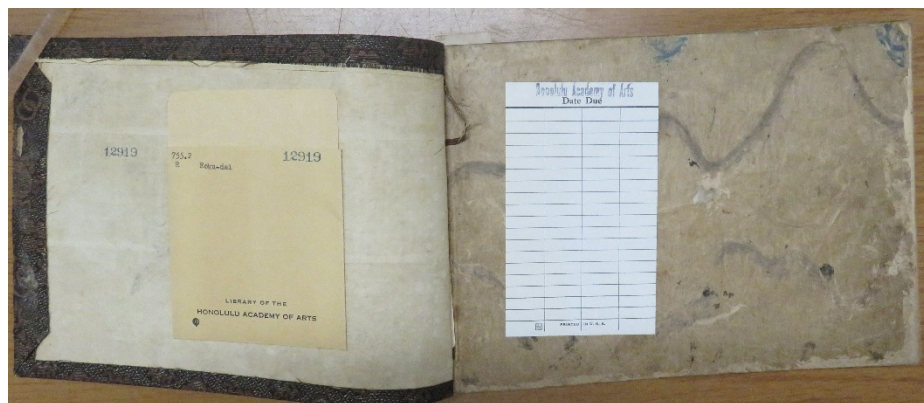
* HoMaの奈良絵本

二種類の横型奈良絵本が揃う点、貴重なコレクション

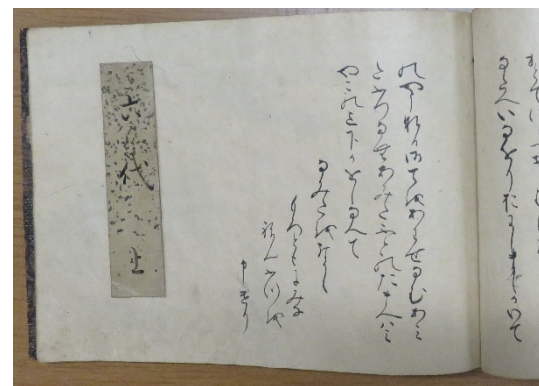
横型奈良絵本 ①

特徴: 大きめの横型本。制作年代が古い。本文は片面13行以上が多い。紙は鳥の子torinoko。

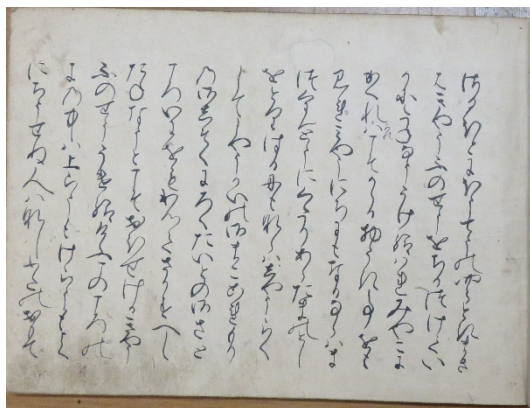
Rokudai『六代』(HoMA) 17.4 × 25.8cm 寛永頃の制作。No. 03341.1



①元表紙(ウラ) 内曇りuhigumori表紙



②題簽挟み込み(後補)



③冒頭(14行)



④斬首を待つ六代

通常は獣皮を敷くが、ここは緋毛氈himōsen。補筆？



⑤六代の乳母

美しい雪の表現

* HoMaの奈良絵本

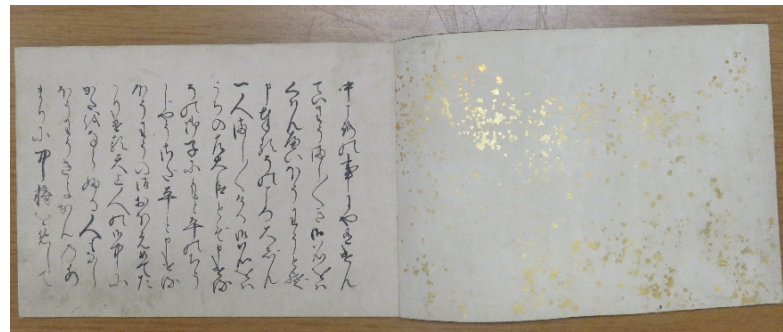
横型奈良絵本②

特徴: ①より小さく、作例が多い。寛文延宝頃(1661~1681)の制作。多くの場合、料紙は間似合紙 maniai gami、詞書は片面13行、挿絵ウラに作品名や掲載順を示す数字を記し、針目安がある。

Kibune no Honji『貴船の本地』(HoMA) 16.4 × 24.1cm。 No.3339.1Ba, 3339.1Bb, 3339.1Bc



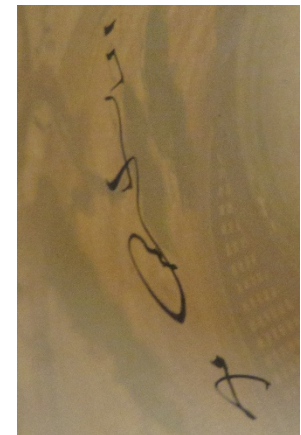
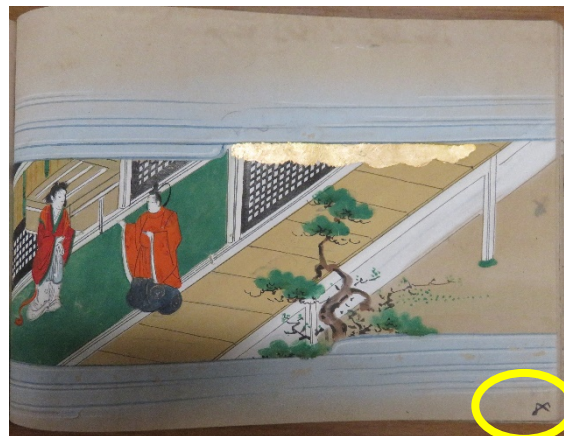
①表紙(紺紙金泥 konshi kindei)



②冒頭(13行)

③上巻第五図とそのウラ
「きふね五」と墨書がある。

◎ この時期の横型奈良絵本には、
挿絵の順番を示す番号や 作品名を
記す場合が多い。



奈良絵本と出版文化—NYPL『山海異物』—

Sankai ibutsu : Nara E-hon(2vol.) 30.2 × 22.0cm

内題「山海異物」。挿絵47図。見開き左に靈獸や異形の図、右に本文を記す。

→陽明文庫蔵『天下全書不求人』万暦26年(1598)刊は、上段に「山海異物」という記載があり、異形48種を収録する。その異形の姿、数、掲出順に至るまで、NYPL蔵『山海異物』とほぼ一致する。

→NYPL本は、陽明文庫本系統の日用類書を奈良絵本に仕立てたもの。

◎明代版本から奈良絵本が作られた例として重要

◎ホノルル本『有象列仙全伝』2種(No.2010.0461.01～.05/TD 2017-2-001)は

版木の割れが一致するなど同版であることは明らか。一方は絵の丁のみを

綴じ直した一本で、絵手本として参照された可能性がある。

奈良絵本と出版文化―麦水文庫蔵『仙人づくし』―

- ・奈良絵本『仙人づくし』(2冊)の仙人たちは、すべて『有象列仙全伝』に載る。
- ・仙人たちが登場する順番も『有象列仙全伝』に同じ。

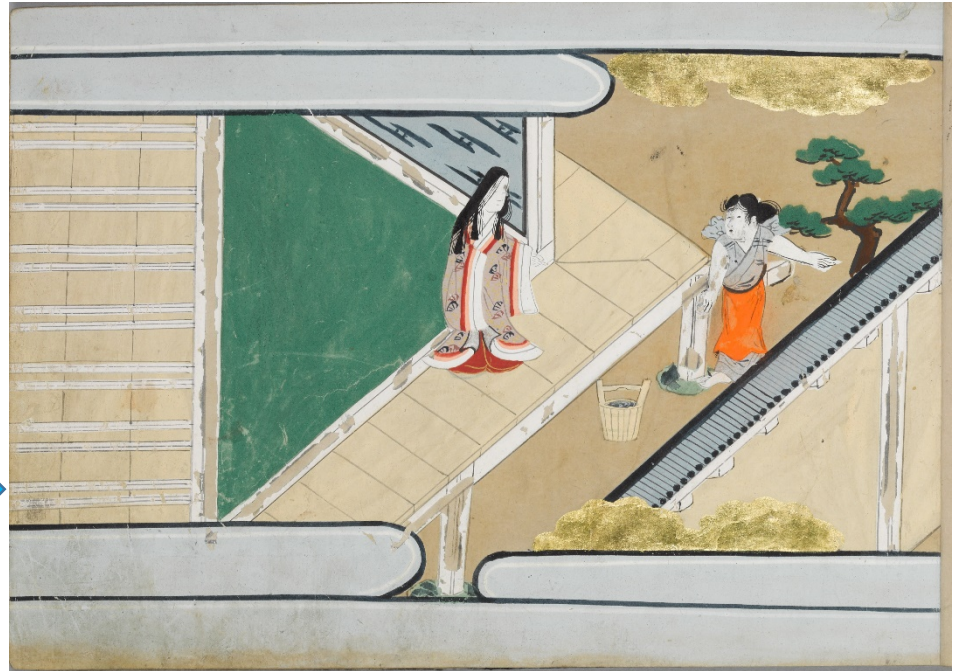
◎『仙人づくし』もまた、奈良絵本の制作と出版文化との関連を示す一例として重要

『唐糸草子』の版本と写本

版本『唐糸草子』 下女から唐糸の
居場所を聞き出す万寿



奈良絵本『唐糸草子』(写本・東洋文庫蔵)



◎ 版本の構図をもとに奈良絵本が制作されている。

奈良絵本と出版文化―岩瀬文庫蔵『岩竹』―

Iwatake : 2vol. 16.4 × 23.8cm。外題「岩竹 上(下)」。

中納言の姫君は、入内の途中、蟹の化物「岩竹」に拉致される。帝の命令で武士たちが化け蟹を退治する。突然、9つの太陽が出現する。弓の名人たちが偽物の太陽を射落としてみると、その正体は鳥で、頭に宝の玉があった。玉の一つは帝の宝物とされ、残りは神社仏閣に収められた。



(画像:『御伽草子 この国は物語にあふれている』より)

◎『岩竹』は『塵滴問答』の版本のみに見える説話「はしごの由来」を用いて作られている⇔「はしごの由来」は写本系統には書かれていない。

◎御伽草子の中には、『岩竹』のように、版本によって広まる「最新の知識」に対する関心を読みとれる例が少なくない。

『塵滴問答 *Jnteki mondō*』

「はしごの由来」 The origin of the ladder

- ・太陽が9つ出る。
- ・8つの太陽はにせもので、正体は鳥だと分かる。
- ・弓の名人たちがはしごを使い、太陽を射落とす。
- ・鳥の頭の中に宝の玉がある。

+

延宝4年1676序『那須記 *Nasuki*』

- ・山奥にいる化け蟹「岩嶽丸」が人間を取って食う。
- ・岩嶽丸は那須一族の武士に退治される(弓が致命傷)。
- ・岩嶽丸の靈魂が大蛇となり、人々に復讐する。
- ・岩嶽丸の靈魂を神社にまつり、那須一族は栄える。

3. ホノルル本『塵滴問答』について

Jinteki mondō 『塵滴問答』(HoMA) № TD 2017-2-002

- ・天文22年(1553)の写本が最古本。
- ・江戸時代を通じて出版され、読み継がれたロングセラー。
- ・事物の起源や仏教知識などを記す。
- ・「老僧が商人の質問に答える」形式で書かれている。
- ・写本系と版本系で内容が大きく異なる。
- ・版本系は事物の起源が中心。分かりやすく、説話的なかたちに整えられている。

『塵滴問答』の版種

①古活字版(7種類)

②寛永中刊(27.8×18.4cm)

③寛永9年版

④寛永10年版

⑤寛永16年版

⑥寛永中刊(19.7×14.2cm)

⑦正保2年版(19.9×14.3cm)

⑧正保3年版(19.5×13.8cm)

⑨明暦2年版(19.1×13.5cm)

刊記に「松会市郎兵衛」とあり。

⑩明暦3年版(21.8×14.3cm)

「刊年を欠いて「松会開板」とのみする版があったというが未詳」(渡辺守邦)

⑪寛文4年版(22.3×15.2cm/絵入り) 挿絵が入り始める

⑫寛文9年版

⑬寛文10年版(19.0×13.2cm)

⑭寛文中刊

⑮宝暦7年版(⑯の元版か? 所在不明)

⑯無刊年 鱗形屋版(18.9×13.6cm/絵入り)

⑰無刊年 村田屋版(18.0×14.9cm/絵入り)

⑱文政13年版(17.6×12.0cm/絵入り)

⑲無刊記 泉市版(17.7×11.8cm/絵入り)

⑳無刊記 文昌堂版(17.5×12.0cm/絵入り)

※①～⑳は渡辺守邦「版本・ちんてき問答一翻刻と解題一」

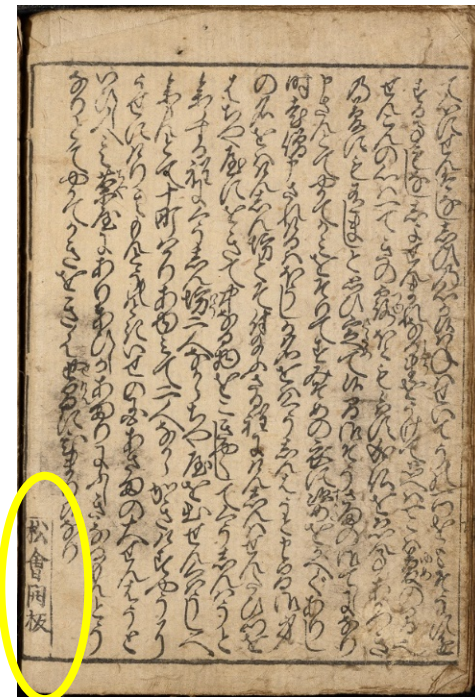
(『国文学研究資料館紀要』9、1983・3)による。

ホノルル本『塵滴問答』とは？

19.0×13.5cm(中本)。題簽欠。片面12～14行。全27丁。
挿絵23図。図は第2丁～第24丁のオモテ丁の下半分に
配置。第25丁から図なし。冊末に「松会開板」とのみあり。

No. TD 2017-2-002

- ・昭和9年(1934)以来、所在が確認されていない本。
- ・『増補松会版書目』(書誌学大系)にも「未見」。



※ホノルル本の書誌は、渡辺守邦リストの①⑥鱗形屋(Urokogataya)本に
最も近いが、丁数や図数は一致しない。

①⑥無刊年 鱗形屋版: 18.9×13.6cm(中本)。15行。全17丁。

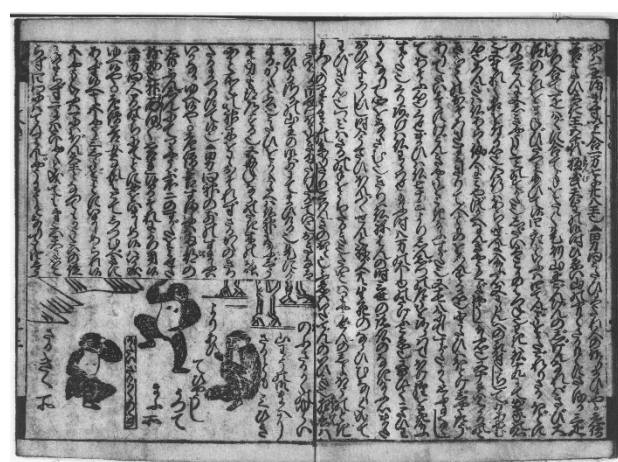
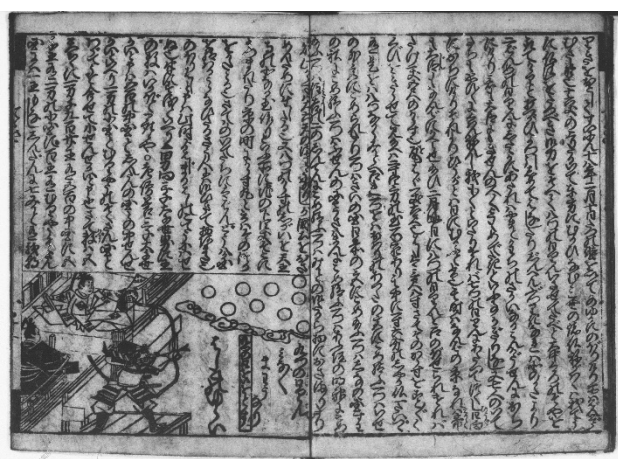
挿絵16図。図はオモテ丁の3分の1に配置。「挿絵には、人物名を枠つきで
記入するほか、短い説明文が入り…和歌を添えることもある」(渡辺解説)。

鱗形屋本(矢口本)/挿絵16図。

本文の仮名遣いなどは異なる。
行や字を詰めて丁数を削減。

ホノルル本/挿絵23図

No. TD 2017-2-002



図版対照表 (ホノルル本／鱗形屋本)

第1図／第1図

2／2	13／9
3／×	14／10
4／3	15／11
5／4	16／12
6／5	17／13
7／6	18／×
8／×	19／14
9／7	20／×
10／8	21／15
11／×	22／16
12／×	23／×



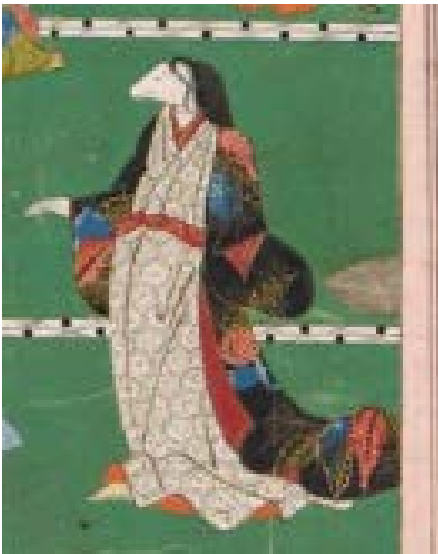
松会版＝江戸版

- ・万治-寛文期(1658-72)に江戸で出版
- ・厚手で粗い紙
- ・独特の書風
- ・装飾的な題簽
- ・行数は半葉15～16行程度(京版は10行～12行程度)
- ・菱川師宣風の挿絵

・鱗形屋の出版する本とは、一部の往来物などを除いて殆ど重複せず、松会と鱗形屋とで棲み分けている。

(柏崎順子「松会三四郎」『言語文化』32、1995・12)

◎ ホノルル本は、松会本と鱗形屋本とが重複する例としても重要。



*Nezumi no sōshi
shusse monogatari*

『塵滴問答』の版種

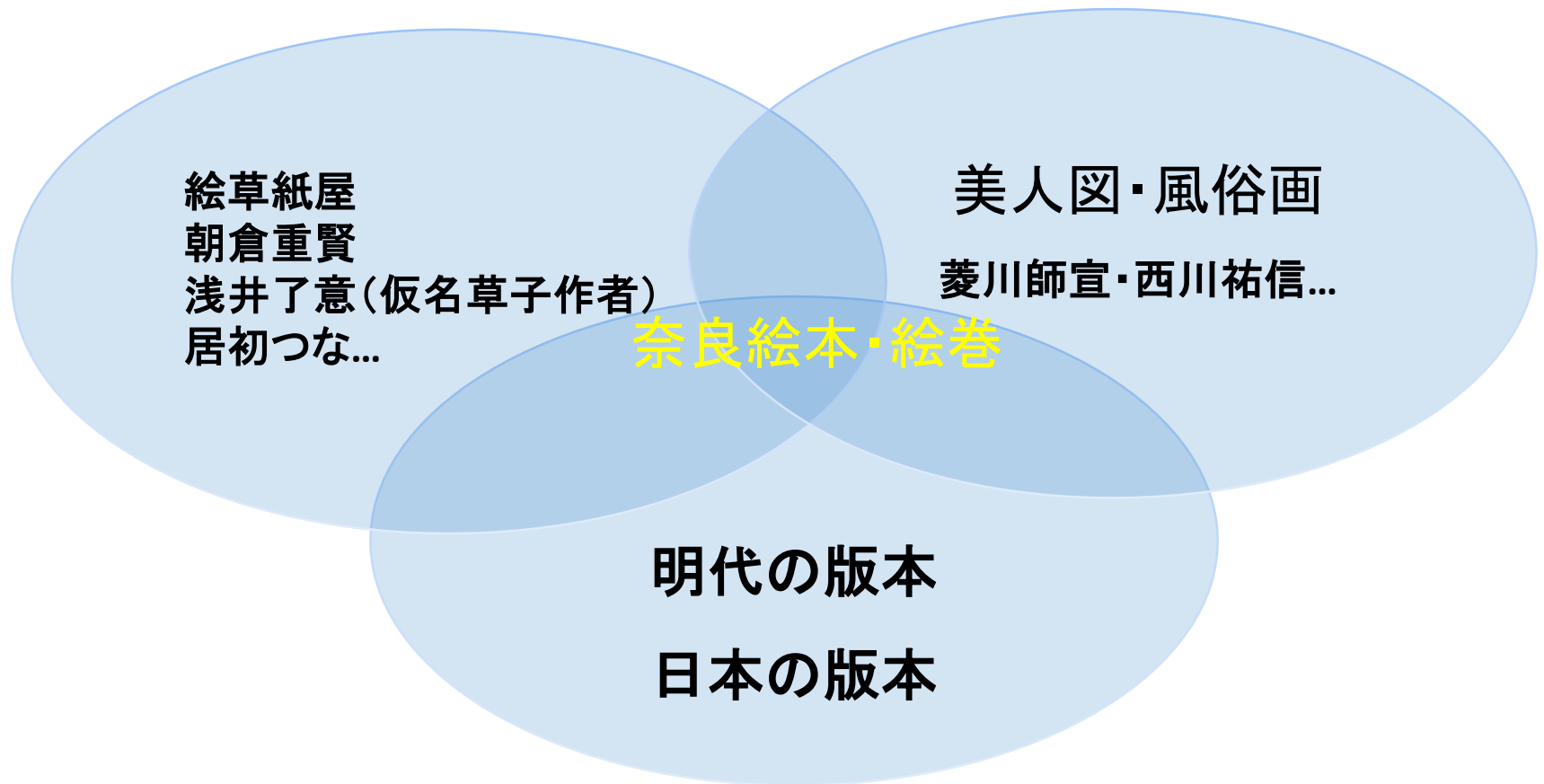
- ①古活字版(7種類)
- ②寛永中刊(27.8×18.4cm)
- ③寛永9年版
- ④寛永10年版
- ⑤寛永16年版
- ⑥寛永中刊(19.7×14.2cm)
- ⑦正保2年版(19.9×14.3cm)
- ⑧正保3年版(19.5×13.8cm)
- ⑨明暦2年版(19.1×13.5cm)
刊記に「松会市郎兵衛」とあり。
- ⑩明暦3年版(21.8×14.3cm)
「刊年を欠いて「松会開板」とのみする版があったというのが未詳」(渡辺守邦)
- ⑪寛文4年版(22.3×15.2cm/絵入り) 挿絵が入り始める
- ⑫寛文9年版
- ⑬寛文10年版(19.0×13.2cm)
- ⑭寛文中刊
- ⑮宝暦7年版(⑯の元版か? 所在不明)
- ⑯無刊年 鱗形屋版(18.9×13.6cm/絵入り)
- ⑰無刊年 村田屋版(18.0×14.9cm/絵入り)
- ⑱文政13年版(17.6×12.0cm/絵入り)
- ⑲無刊記 泉市版(17.7×11.8cm/絵入り)
- ⑳無刊記 文昌堂版(17.5×12.0cm/絵入り)

※①～⑳は渡辺守邦「版本・ちんてき問答一翻刻と解題一」

ホノルル本は⑩⑪の間に位置するか

(『国文学研究資料館紀要』9、1983・3)による。

奈良絵本と近世の出版文化・視覚文化



▽Refesences:

- ・『在外奈良絵本』(角川書店、1981)
- ・奈良絵本国際会議編『御伽草子の世界』(三省堂、1982)
- ・奥平英雄『御伽草子絵巻』(角川書店、1995)
- ・石川透『魅力の御伽草子』(三弥井書店、2000)、『奈良絵本・絵巻の世界』(思文閣出版、2005)、『入門 奈良絵本・絵巻』(2010年、思文閣出版)
- ・徳田和夫『お伽草子事典』(東京堂出版、2002)
- ・神田龍身・西沢正史『中世王朝物語・御伽草子事典』(勉誠出版、2002)
- ・NIJL・CBL共編『チェスター・ビーティー・ライブラリ絵巻絵本解題目録 図録篇・解題篇』(Descriptive catalogue of Japanese illustrated manuscripts and printed books in the Chester Beatty Library 勉誠出版、2002)
- ・『岩瀬文庫蔵 奈良絵本・絵巻解題図録』(慶應義塾大学DARC(奈良絵本)、2007)
- ・『お伽草子 この国は物語にあふれている』(OTOGI-ZOSHI illustrated Tales from Medieval Japan, Land of Stories サントリー美術館展示図録、2012)
- ・『岩崎文庫貴重書書誌解題—東洋文庫絵本コレクション—』(三弥井書店、2016)
- ・リンク集デジタル奈良絵本(<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fujiwara/naraehon-library.html>)
- ・渡邊守邦「奈良絵本の針見当」(『実践国文学』50、1996・10)
- ・伊藤慎吾「近世前期奈良絵本の本文製作—針目安をめぐる」(『国語国文』69-4、2000・4)
- ・柏崎順子「松会三四郎」(『言語文化』32、1995・12)
- ・柏崎順子編『増補松会版書目』(青裳堂書店、日本書誌学大系、2009)
- ・柏崎順子「江戸初期版本の挿絵:延宝期以前」(『言語文化』52、2016・1)
- ・小野尚志「奈良絵本『仙人つくし』について」(『帝京大学文学部紀要』26、1995)
- ・齋藤真麻理「横行八足—岩嶽丸のこと—」(『国文学研究資料館紀要』文学研究編36、2010・3)